

# Newsletter

Vol.12 2010.6.30

日本養護教諭養成大学協議会

事務局：岡山大学大学院教育学研究科

高橋 香代

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1

TEL&FAX 086-251-7699

## ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	養成大学の展望 大学院教育・・・・・・・・・・	5
各種委員会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・	2	事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・	6
養成大学の展望—北から南—・・・・・・・・	4	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6



### 協議会会長挨拶

養護教諭養成教育の  
明日を築く  
会長 高橋 香代  
(岡山大学)



この6月3日に、文部科学大臣から中央教育審議会に、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」が諮問されました。中央教育審議会総会の下に「教員の資質能力向上特別部会」を設置して検討が始まるようです。検討に当たっては、教員が教職生活の全体を通じて普段に専門性を高めていくことを支援するシステムづくりが喫緊の課題であると指摘されており、教員養成・採用・研修の各段階を通じた一体的・総合的な取組が予定されています。本協議会としても、養護教諭の資質能力の向上のために積極的に活動をしていく必要があります。

昨年度末には、文部科学省から大学・教育委員会・教育関係団体等を対象に「教員の資質向上方策の抜本的な見直しに関する検討について」意見・提案募集が行われました。本協議会としても意見を述べる必要が

あると考え、役員会での検討を経て、2010年3月31日、文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室に「教員の資質向上方策についての提案」を提出しました。

本協議会には、これまで教育課程検討委員会、養成制度検討委員会、FD活動委員会の常設委員会での研究活動や、総会における養成教育ワークショップ等の成果を蓄積しています。とくに、教育課程検討委員会では、2007年度日本教育大学協会全国養護部門研究委員会が提案したモデル・コア・カリキュラムの評価を行っています。また2008年度には、養成制度検討委員会が「免許状更新講習プログラム開発事業」で受講側のニーズと開講大学における準備状況を調査しています。この2つの調査は、全国養護教諭連絡協議会の協力を得て実施したもので、現職養護教諭の意見を養成大学の教育に反映させていこうとするものです。この2つの取組だけでなく、これまでの本協議会での成果を、養護教諭の資質能力の向上方策を、養成・採用・研修段階を通じて総合的に検討するために活用できればと思います。

2010年6月現在、会員大学は104大学・短期大学(部)となりました。また2010年度からは、第3期の新役員が運営を担当しています。副会長は、後藤ひとみ先生(総務担当)、岡田加奈子先生(庶務担当)、津島ひろ江先生(渉外・広報担当)にお願いし、第2期に引き続き会長として勤めさせていただきます。微力ですが、会員大学が抱えている課題を共有すると共

に、教育現場と現職養護教諭と連携した養成教育の充実のために力を合わせて参りたいと思いますので、会員大学の皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 各種委員会報告

### 養成制度検討委員会の活動について

#### 委員長 後藤 ひとみ (愛知教育大学)

第1回役員会終了後に、養成制度検討委員会への参加を希望する役員6名が集まり、委員長の選出と今後の活動にむけた意見交換を行いました。互選によって委員長となりましたことをご報告するとともに、今後の活動にむけた提案をさせていただきます。

6月3日(木)付で、文部科学大臣から中央教育審議会に「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」が諮問され、下記3項目を中心とした審議が「教員の資質能力向上特別部会」において行われることになりました。

1. 教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力を着実にみにつけられるような新たな教員養成・教員免許制度の在り方について
2. 新たな教員養成の在り方を踏まえ、教職生活の全体を通じて教員の資質能力の向上を保証するしくみの構築について
3. 教育委員会や大学をはじめとする関係機関や地域社会との組織的・継続的な連携・協働のしくみづくりについて

これに先立って、文部科学省は1月に「教員の資質向上方策の抜本的な見直しに係る検討課題」を提示し、3月末日までに研究機関等による委託調査、教育委員会及び大学からの提案募集、教育関係団体からの意見聴取を行いました。日本養護教諭養成大学協議会は関係団体としての指名は受けていませんでしたが、前役員会の判断によって積極的に「教員の資質向上方策についての提案」(3月31日付)を提出しました。

そこで、本委員会では、この提案内容(大学における養成の原則や開放制の原則を守る、二種免許状の在り方を検討する、教育公務員特例法に養護教諭を明記する、学校教育法附則の緩和規程などを撤廃するなど)

を尊重し、昨今の新たな検討課題である教員免許状の種別や6年制教育なども取り入れながら9月3日の養成教育ワークショップにおいて「これからの養護教諭養成のあり方を考える」(仮題)をテーマとした企画を進めたいと考えています。

養成制度委員会の委員として、ワークショップのみならず養護教諭の養成制度全般について共にご検討いただける方を募ります。旅費などの支弁はできませんが、熱意ある先生方のご参加をお待ちしています。ご希望のかたは、7月31日(土)までにお知らせ下さい。

〈連絡先〉TEL/FAX : 0566-26-2491

Eメール : hgoto@aecc.aichi-edu.ac.jp

委員となる役員は次の方々です(50音順・敬称略)。

- 河田 史宝 (茨城大学)
- 宍戸 州美 (帝京短期大学)
- 鈴木 裕子 (国士舘大学)
- 中桐佐智子 (藍野大学)
- 三木とみ子 (女子栄養大学)



### カリキュラム検討委員会

#### 委員長 岡田 加奈子 (千葉大学)

平成22年6月3日文部科学大臣から中央教育審議会へ「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」に対する諮問が行われました。この教員の資質能力の中核ともなる、基本的な資質能力を培うのは、まぎれもなく我々養成教育です。養護教諭の資質能力とは何か。そして、それを担保する養成教育とは、そして、カリキュラムとはどうあるべきかを検討していくことが、我々の使命ともいえます。

そこで、昨年度までのカリキュラム検討委員会では、日本教育大学協会・全国養護部門が発表した「養護教諭養成モデル・コア・カリキュラム」からみた「大学・短期大学のカリキュラム」について、検討を行ってきました。具体的には、モデル・コア・カリキュラムの内容を検討するとともに、コア・カリキュラムの内容

が各大学でどのような科目でどの程度扱われているかについて、教育系・看護系・学際系大学、短期大学の講義シラバスを対象に分析を行いました。詳細な研究内容については2010年度総会で発行される2009年度事業報告書の中で報告を行う予定です。

今年度からは、テーマとメンバーも新たに研究を開始いたします。テーマはこれまでの養護教諭養成のモデル・コア・カリキュラムの検討を踏まえた「具体的な授業内容と展開」等を考えております。理事会メンバーからは以下の方々がメンバーとなりますが、現在さらに広くメンバーを募集中です。是非、我々と一緒に養護教諭養成のカリキュラム検討を行っていきましょう。メンバーになってくださる方は、7月末日までに岡田にご連絡いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

<連絡先> TEL&FAX : 043-290-2635  
Eメール : okada@faculty.chiba-u.jp

#### 理事会からの委員

委員長 : 岡田 加奈子 (千葉大学)  
今野 洋子 (北翔大学)  
大原 榮子 (名古屋学芸大学短期大学)  
古賀 由紀子 (九州看護福祉大学)  
櫻田 淳 (埼玉県立大学)



## FD 検討委員会の活動方針

### 委員長 池添 志乃 (高知女子大学)

今年度新たなメンバーでFD 検討委員会がスタートします。FD 検討委員会では、学生の実践的指導力の育成につながる教員の授業展開能力や実習指導能力向上に向けて、各大学のもつ課題や取り組みを共有しながら効果的なFD 活動を実施したいと考えています。

多様化する学校現場を背景に、養護教諭養成大学として、学校保健に関する理論知、実践知を統合し、専門的知識・技術を基盤とした実践的指導力を有する養護教諭を養成することが求められています。学生のこれまでの履修履歴を把握し、それを踏まえた指導を行うことにより、不足している知識や技能等を補うものとして、新設された科目「教職実践演習」の質の保証は必須であると考えます。

そこでFD 委員会として「教職実践演習」に焦点をあてFD 活動を行っていきたいと考えています。具体的には、前年度までの本協議会の活動を基盤として、①「教職実践演習」について先駆的な取り組みを行っている大学へのヒアリング、②履修カルテについての取り組み状況の調査、③履修カルテについての研修、④活動の評価等です。「教職実践演習」の履修カルテ作成というプロセスを通して、養護教諭養成教員として、力量の向上に繋げていければと思っています。各養成大学の先生方にもFD 検討委員会に参画していただければと考えております。参加申込期日は7月末日とさせていただきます。

<連絡先> TEL&FAX : 088-847-8712

Eメール : ikezoe@cc.kochi-wu.ac.jp

#### 理事会からの委員

委員長 : 池添 志乃 (高知女子大学)  
津島ひろ江 (川崎医療福祉大学)  
下村 淳子 (愛知学院大学)



# 養成大学の展望

## 大学紹介 北から南

### 佐賀女子短期大学の教育

#### 佐賀女子短期大学 高木 京子

明治30年の創立から110余年の歴史有る旭学園で、養護教諭の養成が始まったのは昭和43年です。これまで約40年間、九州で数少ない養護教諭養成校として、臨時採用も含め多くの卒業生を学校現場に送り出してきました。

「家政科」から始まり、「家政学科」「生活学科」「人間生活学科」と時代や地域のニーズに応え改組が行われてきましたが、平成20年度より地域総合科学科として適格認定された「キャリアデザイン学科」の養護教諭・医療事務系として新たなスタートをしたところです。「キャリアデザイン学科」は、5つの系からなり、さまざまな資格が準備されています。養護教諭・医療事務系においては、養護教諭二種免許状はもとより、医療事務の資格として「メディカルクラーク2級」・「医療事務作業補助者(ドクターズクラーク)」・「調剤報酬請求事務技能認定」という3つの資格、更には訪問介護員2級も取得できる系になっています。自分の将来を自分でデザインしながら幅広く履修できる分、専門性が薄くなるのではないかと懸念もありましたが、新学科設置から3年目を迎えた今、「健康を支える」スペシャリストとしての学びに加え、コミュニケーション能力を含む社会人基礎力・事務力・情報処理能力などを身につけることが、多様化する養護教諭の職務を遂行する上で非常に役に立っていることを実感しています。

女性として、社会人として自立できるキャリアを土台に、現場との連携を図りながら保健指導・健康相談活動・救急処置など実践力を身につけた「学校現場で生じる児童・生徒の健康課題、特に心の面に配慮できる養護教諭」を育てたいと考えています。

地域の子を対象にした小さな私塾から始まった旭学園の名前は、「世の中で一番公平なのは太陽である。全校生徒に対し公平無私平等の太陽のような気持ちで

接してもらいたい。」という創立者・中島ヤスの言葉に由来しますが、これはまさに、全校児童生徒の養護をつかさどる「養護教諭の精神」に重なるものだと感じています。

### 山形大学養護教諭特別別科

#### 山形大学 新井 猛浩

山形大学養護教諭特別別科は今年3月に35回目の卒業生を送り出しました。学生定員は40名ですので、1400名ほどの卒業生が養護教諭1種免許状を本別科で取得していることとなります。養護教諭として山形、宮城、福島といった南東北を中心に東日本各地の学校へ赴任しています。出身地である西日本の学校で活躍している卒業生もいます。看護師として病院に就職した卒業生も、いずれは教職に就きたいと希望する場合があります。

本別科は設置以来、山形大学教育学部を運営母体として看護師免許を基礎資格とした養護教諭養成を行ってきました。平成16年に教育学部が地域教育文化学部へ改組され、教員の計画養成を行わない学部に移行しましたが、引き続き教員養成系学部としてのマンパワーを活用し、養護教諭の養成を担っています。

最近では、看護学校、看護短大の卒業生だけでなく、看護大学を卒業して入学する学生も数多くいます。また、看護師や保健師、助産師として経験を積んだ後、養護教諭を目指して入学する学生も大勢います。年齢が20台後半や30台の学生も珍しくありません。1年間で養護教諭1種免許状が取得できるからというだけではなく、教員を目指すという自覚のもとに、高いモラルで入学し努力しています。

別科担当の専任教員は2名いますが、その他学部教員の協力により養護に関する専門科目と教職に関する専門科目を数多く履修できるような時間割が組まれています。免許法上必要な授業に加えて、学生の興味関心に広く応えられるような授業が開設されています。



# 一 大学院教育 一

高知女子大学大学院 看護学研究科  
地域保健学領域

高知女子大学 池添 志乃

一 地域社会における健康文化の創造に貢献できる  
養護教諭の育成を目指して 一

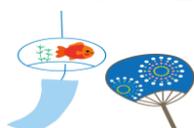
高知女子大学大学院看護学研究科は、日本で最初に開設された看護系大学の歴史と伝統を基盤にし、平成10年に開設されました。平成22年からは、養護教諭が働きながら学べる地域保健学研究コースを新設しました。

地域保健学研究コースは、実践力豊かな養護教諭、保健師、看護師を対象としたコースです。このコースでは、実践現場の課題をとりあげ、理論－実践－研究の関連性をふまえ、学校保健における専門性の向上に向けて実践力、研究を行う能力のある人材の育成を目指しています。

本年度は、1名の現役の養護教諭を大学院に迎えることができました。現在、仕事と学業を両立しながら他領域の方々と共に学びを深めています。入学から今日まで約2ヶ月の大学院生活を振り返って、以下の感想を聞かせてくれました。

「領域の違う方々（しかも経験豊富）に囲まれて、同じテーマについてディスカッションできることで、自分の領域の特異性や専門性を改めて確認することができます。」「病院看護師・施設看護師・行政保健師・検診機関保健師と、様々な立場の方とともに勉強でき、それらの実践を垣間見ることができ、学校において子どもを支援するうえで貴重な情報源となります。」「対象者の尊厳など倫理的姿勢を基盤としてかかわることの重要性を再認識しています。」等々。

多様化する学校現場において養護教諭の役割の拡充・発展がなされています。個人・家族・地域を複眼的視点で捉え、「倫理観・ヒューマニズムを基盤とした高度な専門的知識・技術力」「他の専門職と協働しながら社会状況に対応する力」「多様な健康状態にある人々がその人らしく生きることを支える力」をもった人材を育てていきたいと思っています。



千葉大学大学院 教育学研究科 修士課程・  
東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科  
博士課程  
千葉大学 岡田 加奈子

千葉大学大学院の教育学研究科は修士課程を開設しています。また、東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科博士課程は、千葉大学に加え、東京学芸大学、埼玉大学、横浜国立大学の4大学で構成している、我が国最初の教員養成系の博士課程です。

## 【修士課程】

大学卒業後すぐに大学院に進学する学生の他、仕事を続けながら夜間・土日で履修・修了する現職養護教諭の先生の入学者も多くなってきました。入学後は、教育学研究科や教育学部で開講している臨床心理や特別支援教育等の様々な授業を履修出来るのも大きなメリットです。また、他専攻の現職教員を含めた大学院生間の交流も盛んで、ネットワークが修了後の大きな糧になるとも言えます。さらに大学が資金面で支援してくれるため、国際学会で参加・発表したり、海外調査に同行したりする学生も多いです。平成23年度より大学院組織が変わり、名称も養護教育から変更が予定されていますが、内容はさらに養護教諭の専門性を高める幅広い授業を検討しています。修士課程は、実際の教育現場に貢献出来る専門職業人、さらには、リーダーの育成を目標とした教育を行っていますが、修了生の中には、養護教諭関連の大学の准教授として就職した者もあり、多方面で活躍をしています。

## 【博士課程】

博士課程では、健康・スポーツ教育講座に所属しており、関東地区のみならず、東北地区などかなり遠隔地からの受験生も多くおります。自らの博士論文を書くだけではなく、院生間の専門を越えた交流も盛んです。昨年・一昨年は、現職養護教諭の院生が中心となり、大学院生どうしで、大学院プロジェクトの研究費を頂き、「ヘルス・プロモーション・スクール（健康的な学校づくり）・プロジェクト」を立ち上げ、台湾、香港の健康的な学校の視察を行いました。このように、他領域と連携し、学校を中心としたプロジェクトで学校現場の課題を深めるチーム研究が出来ることも特徴です。これからも養護教諭の実践の学問構築や教育に寄与する人材を育てたいと考えております。





# 事務局からのお知らせ

## 総会のご案内

総会・ワークショップについて

期日：2010年9月3日（金）10：00～

場所：東京田町キャンパスイノベーションセンター  
国際会議場

内容：第1部 総会（趣旨説明、2009年度報告）

第2部 委員会報告

第3部 養成教育ワークショップ

テーマ

「教員養成と現職研修の今後の動向」（予定）

講演者は交渉中

## 基本調査について

2009年度第5回役員会で承認を受け、2010年度からの基本調査を大幅に改訂いたしました。従来、専任教員の氏名・職位・担当科目名等の記載をお願いしていましたが、個人情報管理の上で問題もあり削除しました。基本調査の内容は、本協議会として、会員大学名、課程認定を受けている大学院・学部・短期大学・特別別科・専攻科等の機関名、専任教員数、入学定員・入学者数・卒業生数・免許取得者数、ならびに編入制度の有無、研修に関する項目としました。これらの結果は、総会で報告し公表します。2010年度加盟申請時には、新たな基本調査書類を配布させていただきましたが、昨年度に比べ、回答率がよくなったように思います。今後とも、本協議会の基本調査につきましてご協力をお願いします。（高橋 香代）

## ホームページより

### ホームページより

北と南からUPします！

新役員体制に代わり、2010年度より、HP担当が二人体制になりました。担当者は、高知女子大学の池添・北翔大学の今野です。日本の北と南と、地域的には大きな隔りがありますが、互いに連絡を密にしつつ、HPを運営して参ります。どうぞ、みなさまよろしくお願いたします。（今野 洋子）

## 会計よりお願い

4月から役員が半数入れ替わり、新体制で動き始めました。事務局は各大学からの基本調査を集約し、評議員の名簿作成、会費の受入れ、総会の準備等慌ただしく過ごしています。まだ会費を納入されていない大学は、会費を振り込む際に大学名をご記入ください。今年も個人名や学校法人名を記入している大学が数校あり、ホームページを開いたり、4銀行窓口で大学名を確認しました。

会員大学は、4月から退会2、入会6と変動しており、5月末現在では104大学です。新会員は帝塚山学院大学、山陽学園大学、北里大学、東京家政大学、椋山女学院大学、梅花女子大学です。未加入の大学や新たに養護教諭養成課程認定を受けた大学をご存じの先生は、会員獲得にご協力ください。以上事務局からのお願いです。（中桐 佐智子）



## ニューズレターより

暑中お見舞い申し上げます

今年度からニューズレターはホームページからダウンロードしてご利用ください。（櫻田 淳）

## ★★ 編集後記 ★★

2010年度がスタートして早3ヶ月が過ぎようとしています。紫陽花が鮮やかな季節となりました。

このところ、子どもをめぐる事件や事故の報道が後を絶たず心が痛みます。未来を担う子どもたちは社会の宝物です。子どもたちの夢や希望が実現できるように、教育現場で活躍されている先生方やこれから養護教諭を目指す学生へ期待が高まります。あらためて養成大学としての役割と使命を感じています。

本協議会は新役員体制でスタートしました。大原・櫻田は引き続きニューズレターを担当いたします。心新たに会員大学に役に立つニューズレターづくりに力を注いでいきたいと思ひます。

よろしくお願致します。

櫻田 淳（埼玉県立大学）

大原 榮子（名古屋学芸大学短期大学部）

日本養護教諭養成大学協議会ニューズレターVol.12

発行 日本養護教諭養成大学協議会

編集責任者 高橋 香代（岡山大学）

E-mail: [kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:kayosan2@cc.okayama-u.ac.jp)

連絡は月・火・木にお願いします。

